

もったいじま いち 善導寺町勿体島の市エビス

会期：令和7年1月7日(火)～2月2日(日)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和6年3月 26 日付けで本市が寄贈を受けたエビス座像(A2023-019)を初公開します。座像は総高約30cmの石像で、昭和 16～44 年(1941～69)までの祭日の記録1冊が付属します。もとは善導寺町勿体島(現善導寺町飯田)^{ど い のした}土井ノ下に安置して^{まつ}祀られたもので、1月 15 日、5 月 20 日、10 月 20 日を祭日としました。かつて集落の 15 軒が1年交代で、朝に御酒・御飯を供え、祭日には会食や牛馬の売買等の商いも行われました。

当地集落の人々から信仰を集めたエビス座像を、祭日の記録と共に紹介します。



●No.1 エビス座像

近世～近代

エビスは、^{しょうばいはんじょう}商売繁盛や^{ごこくほうじょう}五穀豊穰などの^{ごり}御利益があるとされ、市場の神としても信仰されます。本像は、右手は釣り竿を持つように握り、左手は像の顔くらい大きな鯛を抱えます。像は一つの石を削り出してつくられ、鯛には赤い彩色がほどこされていました。勿体島の人々は、^{ほが}朗らかな笑みを浮かべるこの像に、毎朝御酒と御飯を供え、祈りをささげました。

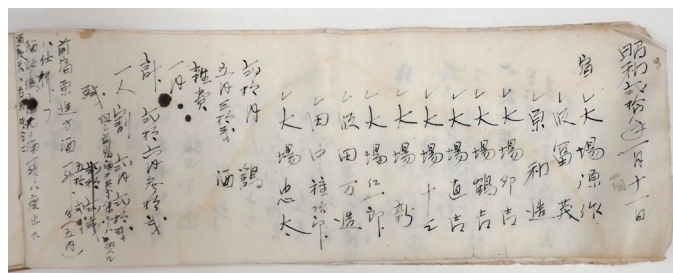


鯛の彩色部分

●No.2 祭日の記録

昭和 16～44 年(1941～69)

集落の人々の名前や、調達した食料品とその値段などが記録されています。祭日は、年によっては月日が前後していますが、太平洋戦争中の昭和 16～20 年(1941～45)を含め、毎年欠かさず3回ありました。展示箇所は昭和 20 年 1 月の記録で、戦時下の物資不足のなかでも、祭日のために鶏や酒が調達されていたことが分かります。



昭和 20 年(1945)1 月 11 日の祭日の記録